

# 中学歴史プリント（過去問類似）

## 弥生時代

名前

得点

/9

**問1** 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. 漢委奴国王                      2. 親魏倭王                      3. 志賀島                      4. 卑弥呼

**問2** 古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した                      2. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた                      3. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した                      4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した

**問3** 弥生時代の農具である「石包丁」の形状と、その使用方法を説明したものとして正しいものはどれか。（2016年 奈良公立入試 類似）

1. 半月形や楕円形の石の側面に穴が開いており、そこに紐を通して指をかけて使用する                      2. 長い木の柄の先に鋭利な石を装着し、地面に近い茎の部分から一気に刈り取る                      3. 平らな石の表面に多くの溝が刻まれており、収穫した稲を叩いて脱穀する                      4. 重い石を棒の先に固定し、土を深く掘り起こして田を耕す

**問4** 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。（2026年 新潟公立入試 類似）

1. 銅鐸                      2. 銅鏡                      3. 銅剣                      4. 石包丁

**問5** 1世紀、3世紀、5世紀の倭（日本）の勢力が行った中国への朝貢について述べた文として、正しいものはどれか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。                      2. 3世紀、邪馬台国の卑弥呼が後漢へ使いを送り、「親魏倭王」の称号を授けられた。                      3. 5世紀、倭の五王が魏へ使いを送り、朝鮮半島における軍事的な立場を認めさせようとした。                      4. 5世紀、奴国の王が南朝の宋へ使いを送り、金印を授けられた。

**問6** 弥生時代の日本列島では、鉄器と青銅器という2種類の金属器が使われていました。鉄器が主に生産や戦闘の道具として発展したのに対し、青銅器が主に「祭祀や儀式的道具」として用いられた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため                      2. 大陸から伝わった時期が鉄器よりも大幅に遅く、すでに農具としての鉄器が普及していたため                      3. 加工が非常に困難であり、当時の技術では小さな鏡や鈴の形にすることしかできなかったため                      4. 青銅には殺菌作用があると考えられており、食料の保存や医療用の道具として限定的に使われたため

**問7** 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。                      2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。                      3. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。                      4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。

**問8** 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟公立入試 類似）

1. 銅鐸                      2. 銅矛                      3. 銅戈                      4. 埴輪

**問9** 3世紀の弥生時代、倭の邪馬台国の女王である卑弥呼がおこなった外交について述べた文として、正しいものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）

1. 中国の魏の皇帝に使いを送って絹などを贈り、親魏倭王の称号と金印を授けられた。                      2. 冠位十二階を定めて個人の才能や功績に応じた位を与え、中国との交流を深めた。                      3. 平清盛が大輪田泊を修築したことで、中国との間でさかんに貿易が行われるようになった。                      4. 大宝律令によって定められた「調」という税として、各地から絹などの布を集めた。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問2	<b>答え 1</b> 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問3	<b>答え 1</b> 半月形や楕円形の石の側面に穴が開いており、そこに紐を通して指をかけて使用する	石包丁には指を通すための小さな穴が開いているのが特徴です。この穴に紐を通し、手に固定することで、稲の穂を効率よく摘み取ることができました。こうした道具の工夫から、当時の人々が手作業で丁寧に収穫を行っていた様子がうかがえます。
問4	<b>答え 1</b> 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問5	<b>答え 1</b> 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。	1世紀には、九州の奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。3世紀に魏へ使いを送ったのは邪馬台国の卑弥呼であり、5世紀に南朝の宋へ使いを送ったのは倭の五王です。それぞれの時代における「倭の勢力」と「中国の王朝」の組み合わせを正確に把握する必要があります。
問6	<b>答え 1</b> 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため	青銅（銅とスズの合金）は鉄に比べて柔らかく、激しい衝撃が加わる武器や農具として使うとすぐに傷んでしまう欠点がありました。しかし、鑄造によって複雑な模様を表現しやすく、磨き上げると金色に輝くといった装飾的な特徴があったため、集団の結束を高めるための祭りや、神聖な儀式の象徴として利用されるようになりました。
問7	<b>答え 1</b> 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問8	<b>答え 1</b> 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格を強めていきました。
問9	<b>答え 1</b> 中国の魏の皇帝に使いを送って絹などを贈り、親魏倭王の称号と金印を授けられた。	3世紀前半、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の三国時代のひとつである「魏」に使いを送り、貢ぎ物を贈る「朝貢」を行いました。これにより、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号と、金印、銅鏡などを授けられました。これは、中国の王朝から認められることで、国内における自らの支配力を高める狙いがあったと考えられています。他の選択肢にある「冠位十二階」は飛鳥時代の聖徳太子、「大輪田泊」は平安時代末期の平清盛、「大宝律令」は奈良時代直前の制度であり、時代が異なります。